

日韓中民俗芸能フェスティバル

西湊鬼樂太鼓

～躍動する和太鼓の演技で、韓国金泉市民を魅了～

金泉市派遣職員
野崎長志さん

直江大輔さん

大崎誠也さん

リーダー
松平武男さん

前吉利光さん

大杉 尚さん

パク・ポーセン金泉市長と記念品交換をする山本進団長

パレードを楽しみながら演奏するメンバーたち

舞台の演奏は最高潮に！

金泉市派遣職員 野崎長志レポート

10月10日からの2日間、「日韓中民俗芸能フェスティバル」が七尾市との国際姉妹都市である韓国金泉市で開催。

このフェスティバルには、七尾市をはじめ、金泉市との国際姉妹都市である中国成都市の公演団が招待。各国の芸能が、大舞台で披露されました。

七尾市から選ばれた団体は、私が所属している「西湊鬼樂太鼓」。公演では、私もメンバーの5人と参加し、太鼓演奏を披露しました。舞台では、「自分たちの芸能が異国の地で通用するのか」という不安を抱えながらも、メンバーはいつも以上の気迫のこもった太鼓演奏を披露。2回の公演を終えたメンバーの不安は確かな自信へと変わり、また、観客からは、鳴り止まない拍手や、賞賛の声をいただきました。

この公演を通して、金泉市民の心に、躍動する七尾の和太鼓を印象づけ、金泉市との絆は、これまでに以上に強まったように感じました。

今回の文化交流や今夏の中学生交流は、参加した人たちにとって貴重な経験になったということ、そして、この出会いが終わりではなく、これからの大きな可能性を秘めた交流へと進化していくことを感じました。

今後、七尾市と金泉市をつなぐ、架け橋となつてがんばりたいと思います。



9月21日(金)：自宅（深見町）

又吉さんは本当に元気いっぱいだ。この歳になっても家族の介助はほとんどいらない。自ら自宅の庭の木を剪定したり、草刈機にエンジンをかけ、除草作業をしたりと意欲的だ。日課として近くの山への散歩も欠かさない。まさに七尾市一番の超人。又吉さんは「なにせ、動かないと。けど、早く浄土に連れて行ってもらわないとね」と冗談も話すほどひょうきんな一面も。又吉さんを見て、逆に周囲の人たちが元気をもらったような感じだった。

く荒木又吉さんく

105歳誕生日おめでとーございます



9月21日(金)：ななみの里（石崎町）

これまで大病を患うこともなく100歳の誕生日を迎えられたとめさん。家族や施設の入所者などの皆さんが集まり、にぎやかに誕生会が開かれた。次男の嫁の松田タマキさんは「特に健康に気をつけていたわけではなく、好き嫌いがなく何でも食べている」と家族から見たとめさんの長寿の秘訣を話してくれた。施設では車いすでいろいろと周り、ひなたぼっこなどもして穏やかに過ごしているととめさん。これからも元気で長生きしてください。

く松田とめさんく

100歳誕生日おめでとーございます



10月7日(日)：能登国分寺公園

今年で26回目を迎える徳田地区のイベント「徳田まつり」。昭和60年頃に、地元の壮年団がまちおこしの一環として始めたもの。今では、町内会総出の大規模な催しとなっている。ステージでは、伝統芸能の獅子舞やふるさと太鼓など普段見ることのできない競演があり、大勢の観客でにぎわっていた。訪れた人たちにとって、まつりを通してふるさととの伝統や文化に親しむ良い機会となったのでは。

く町内会総出の一大イベントく

伝統芸能を披露「徳田まつり」



9月22日(水)：鶴浦町

今年、獅子舞を23年ぶりに新調した秋祭り。若い衆や小学生は、心機一転の気持ちで太鼓や笛のリズムに合わせて、獅子舞の踊りを披露した。神輿を担いだ若い衆が、長く栄えるという意味の「ちょいやさ」と威勢のいい掛け声で、町内を練り歩いた。今回初めて女の子の踊り子が登場。踊り子を演じた松本明日風さん（北星小学校2年生）は、男の子にも負けない勇ましい踊りを披露。長年続く秋祭りの歴史に新しい風を吹き込んだ。

く女の子の踊り子が登場く

実りの秋に感謝する「鶴浦町の秋祭り」



10月18日(木)：エレガントなぎの浦

小丸山小学校3年生34人は、高齢者に喜んでもらおうと老人ホームを訪問。ちぎり絵や紙芝居、風船バレーなどを高齢者と一緒に楽しんだ。体を動かす風船バレーでは、児童と高齢者混合の2チームに分かれ、点数を競い合った。鷹合祐依（ゆい）さんは「紙芝居をしたら、おばあちゃんが手をたたき、喜んでくれてうれしかった」と笑顔で話してくれた。児童は、高齢者との交流を通じて、人を喜ばせることができることを感じたのではないかな。

く高齢者を喜ばせるく

小学生と高齢者の交流



10月9日(火)：七尾東雲高等学校

七尾東雲高等学校の2年生で運営する「高校生カフェ・レス しなのめ夢パーク」。毎週火・木・金曜日の放課後に、生徒が手作りしたクッキーやパウンドケーキなどを販売。商品には、中島菜、金糸瓜など地元産食材を使用し、コーヒーや紅茶が楽しめるカフェコーナーも設けられている。池島美希さんは「地域の皆さんに愛されるお店づくりを目指す」と目標を語ってくれた。地域住民が気軽に学校へ立ち寄れる取り組みとして、今後人気を呼びそうだ。

く地域の皆さんに愛されるお店へく

高校生がカフェをオープン